

平成21年4月9日



news release

ポケットカード株式会社(8519) 平成21年2月期 業績の概況(連結)

営業収益 388 億 26 百万円 (前期比 3.4%減)、経常利益 18 億 38 百万円 (同 42.0%減)

当期純利益 12 億 59 百万円 (同 34.5%増)

ポケットカード株式会社(8519)の平成21年2月期の業績は、割賦購入あっせん部門及びプロセッシング部門が順調に推移し増収となったものの、融資部門で利息制限法に定める上限金利内への債権ポートフォリオの移行を進めた結果、営業収益全体では 388 億 26 百万円(前期比 3.4%減)となりました。また、費用面では、昨今の金融危機の影響を受け金融費用が増加したものの、業務効率の改善、ローコスト化の推進により販売管理費では減少しており、営業費用全体では前期比ほぼ横ばいの 369 億 81 百万円(同 0.1%減)、その結果、営業利益は 18 億 45 百万円(同 41.6%減)、経常利益は 18 億 38 百万円(同 42.0%減)、当期純利益は 12 億 59 百万円(同 34.5%増)となりました。

収入面では、割賦購入あっせん部門が、各種マーケティング施策の実施により取扱高が増加したことに加え、リボ専用カードの募集強化やシステム面での利便性向上などによりショッピングリボ残高が大幅に拡大した結果、営業収益は 75 億 86 百万円(前期比 24.7%増)となりました。

融資部門につきましては、貸金業法改正に伴う消費者信用市場の縮小並びに与信の厳格運用等の影響により、取扱高が大幅に減少したことに加え、利息制限法に定める上限金利内への債権ポートフォリオの移行を進めた結果、営業収益は 274 億 88 百万円(同 12.5%減)となりました。

また、昨年度から本格的な運用を開始いたしましたプロセッシング部門につきましては、プロセッシング受託件数並びに保証債権残高が大幅に拡大し、営業収益は 26 億 8 百万円(同 92.9%増)となりました。

以上の結果、営業収益全体では 388 億 26 百万円(同 3.4%減)となりました。

費用面では、今般の金融危機等の影響による調達金利の上昇並びにショッピング債権流動化等に伴うイニシャルコストの発生等により金融費用が増加したものの、貸倒・利息返還関費用の減少並びに業務全般におけるコスト構造の改善に努めた結果販売管理費が減少し、営業費用は 369 億 81 百万円(同 0.1%減)となりました。

以上の結果、営業利益は 18 億 45 百万円(同 41.6%減)、経常利益は 18 億 38 百万円(同 42.0%減)となりました。当期純利益につきましては当社保有株式の売却による特別利益の計上等により 12 億 59 百万円(同 34.5%増)となりました。

【単位：百万円】

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益
平成21年2月期 連結業績	38,826	1,845	1,838	1,259
平成20年2月期 連結業績	40,188	3,161	3,168	936
前期比	△3.4%	△41.6%	△42.0%	+34.5%

以上